

# 風車設置の景観 A Rで作成

不動技研工業(長崎) アプリ開発

事業者と住民の合意形成に活用



拡張現実 (AR) で作成した風車設置時の景観の画像 (同社提供)

不動技研工業(長崎市)は、拡張現実 (AR) を使って、風力発電の風車設置時の景観のイメージ画像・映像を作成するアプリ「Virtual Wind Farm (バーチャルウィンドファーム)」をリリースした。風車設置を巡っては景観が損なわれると懸念の声が上がるケースも少なくない。発電事業者が住民の理解を得る際にアプリを用い、景観が問題視されない配置計画の検討につなげてもらうのが目的。

や写真に架空の風車を合成することが出来る。陸上と洋上のいずれにも対応し、風車の高さや羽の長さ、設置する基数などを自由に設定できる。数年前から事業者の依頼を受け、仮想現実 (VR) で作成していたが、1カ月程度を要していた。期間短縮を図るため2023年秋にアプリ開発に着手。アプリを使うと約1分で風車を合成した画像や映像を作成できるのが強みという。

同社事業推進本部の松本穂積技師は「事業者と住民がウィンウィンになるための合意形成に役立ててもらいたい」としている。

アプリは、米アップルの「iOS」向け。無料だが使える機能に制限がある「ライト版」と、同社と契約して有料で利用できる「ライセンス版」の2種類がある。

(江川雅玖)